平成 28 年度

各部署の中間評価報告書

上宮太子中学校・高等学校

学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高校教務部	**責任者名**	

①カリキュラムについては、進路指導部と協力しながら改善を進めている。

シラバスについても各教科と連絡を取りながら進めている。

②教務内規については、これから重点的に検討する予定である。

③各種届出の管理、出勤簿の捺印については目標には至っていない状況である。

④概ね問題が無い状況である。

⑤整備委員会を開き、各クラスの呼びかけを実施した。

⑥職員朝礼時に、先生方に整理整頓のお願いをした。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

平成２９年度行事について、各分掌・教科主任・学年主任等に聞き取りをしながら、よりよい形に取りまとめてく。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学校教務部	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

(1)中学校志願者数増加方策の検討・実施について、

○体験学習会・プレテスト会の改良

○入試形態の改良

(2)各コース指針・方策の再検討について、

○特進選抜コースの指針を明確化

(3)有効な指導体系の継続検討について、

○中学音楽・美術の定期(期末・学年末)考査設定・実施、保健体育の定期考査検討

(4)教務運営システムの整備・効率化について、

○行事の着実な実施と改良推進

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

○上記項目(3)に関し、カリキュラム改良の検討,(4)に関し、教務内規の精査・改定・整備については進捗できていない。

○年度末に向けて、(4)に関し、中学教務各係の業務内容と資料の点検・整備を進める。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	責任者名	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

10 月 31 日(月)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

生徒相談　予定通りに進んでいる。特に問題なし。

生徒会　体育大会・文化祭は生徒中心の運営を心がけ、生徒達も積極的に仕事をこなしていた。あいさつ活動についても、当番を決めて早朝より元気に挨拶していた。ただ風紀委員の挨拶への参加がなくなった。（高校）整美委員は、今回は机椅子のラベル張りなど新しい動きにも積極的に参加していた。

生活指導　生活指導が高校で 2 件発生している。また、外部からの苦情の電話も数件出ている。規範意識のみならず、マナー・エチケット指導の必要あり。また、ＳＮＳによるトラブルも発生している。

新高 1 学年に「保護者から生徒への手紙」を提案、新入生合宿で実施される。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

校訓・学順を実践するべく取り組みを強化していきたい。そのためには係先生だけでなく、全教員での取り組みが必要で、共通認識をしっかりと共有したく思う。特に、1 は学問ではなく掃除であることを教員が身をもって発信する必要性を感じる。そして、生徒に伝わる工夫を考えたい。

3 月に防犯教室として、ネットに関する問題を、外部より講師を招いて講演していただく予定。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	進路指導部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

Ⅰ．ａ．読書推進（読書する生徒の様子が見えてこない。）
　　ｂ．家庭学習（自ら進んで取り組んでいるものは少ない。）
　　ｃ．模試（分析はできているが、前後の指導がまだまだ不十分である。）
　　ｄ．情報発信（保護者や先生方への情報発信が不十分であり、学年間で差がある。）
　　ｅ．特別授業（８月下旬の内容を再検討すべきである。）
　　ｆ．カリキュラム（新カリキュラムの作成は完了した。）

Ⅱ．ｇ．中学ＬＨＲ（中３において、講演会を企画中である。）
　　ｈ．トップレベル講習（集中型へ変更し、生徒の取り組み状況は良くなった。）

Ⅲ．ｉ．業務改善（業務量の偏りが見られる。また、全体的に業務量が多すぎる。）
　　ｊ．入試改革（進路指導部以外の先生方への情報発信が足りていない。）
　　ｋ．アクティブラーニング（外部セミナーに積極的に参加している。）

※その他　高校ＬＨＲ（特に、高校１年後半～高校２年前半の計画が不十分である。）

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

Ⅰ．ａ．中学生の読書環境を整えることを中心に、今後も精力的に進めていく。
　　ｂ．強制的に取り組ませることを含めて検討する。
　　ｃ．前後の指導はもちろん、分析についても生徒に届くよう工夫していく。
　　ｄ．これまで以上に、先生方への情報発信を強化していく。
　　また、生徒や先生方を通じて、保護者にまで情報が伝わるよう工夫する。
　　ｅ．来年度に向けての課題とする。
　　ｆ．教務部へ、検討を依頼する。

Ⅱ．ｇ．今年度の実施内容を振り返り、来年度までに新たな計画を立案する。
　　ｈ．参加者の条件について検討する。また、保護者へも連絡するようにする。

Ⅲ．ｉ．業務量の削減・分担について、再検討を行う。
　　ｊ．職員会議等において、情報発信を行う。
　　ｋ．進路指導部以外の先生方にも、外部セミナーなどに積極的に参加していただく。
　　また、セミナー参加後の情報共有に留意する。

※その他　来年度に向けて、新しい計画案を作成する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	責任者名	

（1）中学入試における受験者数確保のための活動

① 中学受験を行っている塾への訪問回数は昨年度よりも増やし、コース説明、イベント告知などの広報活動を積極的に行っている。

② 学校紹介広報誌やメールを積極的に配信し、イベントの告知を行っている。昨年に比べ説明会などの動員数が増加している。

③ 聖徳書道展の広報活動を富田林市、羽曳野市の全小学校に対して行った。書道展を通して上宮太子を知って頂けるよう活動している。また、プレテストおよび学校紹介の折込広告を南河内地区に対して行った。折込の効果のほどは分からないが、塾無しのプレテスト参加者の増加から認知度は上がってきているものと思われる。

☆適性検査型入試導入により、プレテストの参加者は増加している。

（2）高校入試における受験者数安定化のための活動

① 例年並みの訪問である。

② 昨年に比べ、出張授業や学校訪問の件数が減少している。今後も依頼が来るよう積極的に案内をかける。

③ オープンキャンパスのリーフレットは重点地域の中３生すべてに配布した。オープンキャンパスの参加者は昨年より倍増した。

（3）情報収集・共有化

・渉外活動や研修会参加において情報収集は積極的に行っている。入試対策部内での共有は概ね図れているが学校全体での共有は達成できていない。

（4）今後に向けての対応策検討

・収集した情報をもとに、検討中である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・（1）について

今後も積極的に行っていくが、特に今まで関わりのあった受験生に対し、塾を通じてのアプローチを強化していく。

・（2）について

塾や中学校を通し、積極的に案内をかけていく。説明会への動員数を増やすよう広報活動を行っていく。

・（3）について

学校全体での情報共有化を図る。

・（4）について

部内での意見を集約し具体的に検討していきたい。

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国語科	**責任者名**	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

10 月 31 日(月)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

今年の最大の問題点も、教科の教授内容をどう改革していくかということであったと思う。特に新テストの指針も示された中で、新課程において時代が求めることに応じて、読書指導や論理エンジンの導入をもとにした抜本的な授業改革を、可及的速やかに、かつ体系的に進めていかなければならない。しかし、現状では、全体的に見て改革が進んだとは言い難い。実際、日々の授業や校務・入試編集などの業務をこなすことが優先され、中々着手できていない。できれば１人１人の先生方が、教科指導に十分力を注げる余裕が少し欲しい。

３年生の受験対応については、教科会で話題になることも多い。特に小論文（志望理由書）の作成については、国語科教員の負担が、毎年ものすごく大きい。学年の先生においては、他教科の先生方にも指導して頂けるよう、ある程度のガイドラインを教科で作成し、三年の担任の先生方にもレクチャーしたり、副教材を見直したりしながら、生徒の記述力を上げる取り組みをする必要性を感じている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

国語力検定においては、新学年度より、２０２０年の教育改革を見越した検定の改訂が行われる。よって、来年度からは他社も含め、ゼロベースから検討し直したい。

さらに、年度末に向けては、入試編集業務が一段落ついたところで、一度全員に向けて、教科指導についての勉強会を実施したり、シラバスの内容を検討したりといった点で、しっかりと今後の教科改革（新課程に向けての方針）を議論できる場を設けていきたいと思っている。各先生方においては、それぞれの持ち場で精一杯やって頂いているものの、思ったように生徒に伝わらないと感じている点も多いと感じる。総合進学・特進ともに、どのように生徒を導いていくのか、長期的視点と年単位の視点で、それぞれの指針を作っていきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	社会科	**責任者名**	

１、授業の厳正化

①中学における、学習内容が増加した新課程の対応として、地理・歴史・公民３分野の基礎学力を定着させる授業の実施に取り組んでいる。

②授業内容を理解させるため、より授業に集中できる雰囲気作りの実施について、各分野において授業中に出てくるエピソード的な話がある単元では、話を行い、授業のアクセントとして活用したのち、切り替えさせて集中させるなどの授業展開の工夫を実施している。

③授業アンケートを参考にし、個々の教員による授業技術向上に向けた研鑽の研究については、個々の教員任せとなっており、教科として組織的な研鑽の研究までには至っていない。又、例年駿台予備校のセンター試験研究会へ参加しているが、参加内容について科目の教員へのフィードバックが十分できていない。

２、高２文系科目選択のあり方

第１回文理選択希望調査日までに、高１学年と連携し、日本史・世界史担当者より科目特徴を生徒に理解させる機会を昨年度より実施している。案内する内容については、何が最適か今後とも考えていきたい。

３、教科会の活性化

①教科会の実施と科目間の連携については、教科内の認識共有のための必要最小限の回数しか実施できていない。

②授業見学会実施の検討（科目間など小グループからでも実施の継続）については、今年度も、科目間などの小グループのみしか実施できていない。

４、平成 29 年度本校入試問題の研究

①他校の入試問題などを研究し本校入試問題にふさわしい内容にするための研究については、３年前より問題集を購入し、各分野の担当者間でおこなってはいるものの、教科として組織的に十分行えていない。

②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究については、各科目間担当者内では話し合いを行っているものの教科として組織的には行えてはいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・社会科としての例年の課題となってきているが、教科会の実施と科目間の連携については、日常業務の忙しさもあり、十分に実施できていないが、今後は教科の認識の共有を行うため、出来る限り実施回数の増加をはかっていきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数学科	**責任者名**	

１．授業の厳正化

各コースの特性を考慮した教材研究を行い，授業に反映させ、担当教員間での情報交換を行うことで，より良い教材を共有し授業を進めた。

２．数学力の向上

授業内容の定着，模擬試験対策のための家庭学習を提示し，学習状況の把握に努めた。

成績不振者への補習，コース・進路を考慮した講習を長期的または短期集中的に行った。

ただ、学年任せのところが多いので、教科としての方針をきちんと決める必要がある。

３．教科会の活性化

連絡の徹底と教科内の共通認識に努めたが、研修まではできていない。

４．中学高校入試問題の研究と入試編集の効率化

教科担当者全員が原案を提出し，標準的な良問作成に取り組んだが、適性検査も増え作る問題が多いので、完成までにかなりの時間を費やした。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・自由に授業見学を行っているが，計画的な授業見学が実施できていない。

・大学入試問題の研究を個々には行っているが，教科会での研修には至っていない。

・個々の力に頼るところが大きく、全体で取り組むことがなかなかできていない

・アクティブラーニングの取り入れについては、まだ検討できていない。

やるべきこと、やれることはまだたくさんあると思われる。少しずつでも進めていくことが必要。

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理　科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

① 指導力を向上し、授業内容を充実する。

・中学の授業を中心に、教科書で扱われている実験や観察はできる限り取り入れるようにしており、興味を持たせるようにしている。

・できるだけ月１回のペースで研究授業を行い、お互いの良いところを参考にして、自分の授業に活かせるようにしている。

・大学入試問題の研究は、個々には取り組めているが、互いの情報共有まではなかなか進展していない。

② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。

・補講習は熱心に実施しているが、生徒の積極性が足りない（参加している生徒は非常に熱心である）。

③ 中高連携などに関して教科内で研究する。

・あまり進んでいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・文理選択において、理系を希望する生徒に対する指導をもっと徹底する必要がある。あまりにも安易に理系を選んでいるように見受けられる。今年度の高２高３の理系の状況が心配である。特に高２においては、物理化学とも相当数評定１が出そうな状態である。担当者は努力しているが、すでに諦めている生徒がいる。評定１が出ないように教科として心配な生徒への指導はするが、文理選択の在り方を学校全体の問題として考える時期に来ているように思われる。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	**責任者名**	

①英語学力の向上

・小テスト実施による学習定着

⇒各学年ともに、早朝テストの実施、授業中の復習テストと計画的に実施をされており、生徒の学習リズムにもつながっている。効果的に実施できている。

・英検受験の奨励

⇒毎回各学年のご協力のもと、積極的に参加できている。

②英語学習の動機づけに繋がる取り組みの充実

・高校英会話講習会の充実

⇒３月実施に向けて現在打合わせ進行中

・中学イングリッシュキャンプの充実

（学習強化合宿内での実施を含む）

⇒夏期合宿の中で楽しく実施することができた。京都の神社仏閣をネイティブ講師と巡り、最後に大谷大学のキャンパスを借りてプレゼンをするところまでもっていけた。

・英語圏で使われている教材の多読（中学校）

（オックスフォード・リーディング・ツリーを使用）

⇒現在授業で利用している。

③成果に繋がる指導法の研究

・教員間の授業方法、授業工夫の紹介

⇒なかなか時間が取れず、まだあまり実現していない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

③の項目以外は、予定通りに進んでいると言える。

今後は、外部研究会等を対象とした教員の教授法向上を目的とした研究会等への積極参加を促すつもりである。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

・時間を守る・集団行動の様式の習得と実践（静と動）・服装を正す・整理整頓・心肺蘇生法の習得

概ね出来ている。

・各種目の技術習得・安全面の確保

生徒全般の運動能力の低下が表れてきている。特に体力面では著しく低いように感じられた。それに伴い技術の習得も遅いような気がする。技術体力が低下するとけがや事故が増え負傷者がでるのだが、教員の取り返しのつかないような事故は起こらなかった。引き続き安全面に配慮し、安全教育も同時に行っていきます。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・グラウンドでの授業や部活動において

備品の管理状況が悪い。部活動と授業で共有している備品の損失が特にひどい年度末に向けて改善していきます。

消耗品（ボール、ラケットなど）の管理。紛失や破損は多少致し方ないが、例年よりも消耗度合いが高いように感じる。各担当の授業で管理の徹底を促し改善していきます。

平成 28 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	芸　術　科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

（１）表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。

・三科目とも実技を中心に行いながら、歴史的なことや学問的なことにも触れ、授業が進められている。

・中学の音楽・美術とも１学期の期末考査を実施した。方法内容について、再考せねばならぬと思う。

（２）評価評定の方法について協議する。

・教科会にて何度か評定の在り方について話したが、今も進行中である。

（３）行事への協力、取り組みについて。

・聖徳書道展において展示のレイアウト及び作業に協力できたと思う。

・上宮祭においても文化的発表面で、協力できたと思う。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・芸術は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価、評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。

・中学の音楽・美術の考査を実施しているが、どうあるべきかを継続して考えていきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	技術家庭科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

①技術・家庭科に対する学習意義の理解

・ 他教科との連携ができていないので、今年度中に計画を立て提案していきたい。

②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成

・ 家庭科での家族員への感謝の心や奉仕の精神は少しずつ浸透してきた。これからも継続して伝えていきたい。技術では、学習がより身近に感じてもらうようにアプローチを行っている。

③男女共同参画社会の推進

・ 情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用をどんどん取り入れていかなければいけないため、授業中だけでなく、日常から意識させている。

④教材の整備

・ 実習教材は検討でき、必要な備品などの整備を進めていっている。

⑤実践的授業の実施計画

・ 年間計画の通り進めている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

＜高校家庭＞

・ 新しい教材で授業を進めているが、改善点などもわかってきたので、その都度修正して授業に臨むように心がける。

・ 生徒の反応を大事にし、生活に直結させるよう情報収集をさらに行い、理解しやすく知識を深められるよう努める。

＜中学技術家庭＞

・ 生活の中の学習を意識し、保護者の理解や協力をしていただきながら、興味関心を深めさせる。

・ 実習では、知識だけでなく、説明を理解させ、事故なく安全に進められるよう準備・片付けを徹底する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

①

・　新課程における年間指導計画の再検討は，継続して実施している。

・　効果的な実習内容の検討は，すでに実施し，実習内容も一部変更した。

・　座学で扱う内容についての再検討も実施した。

②　PC 教室の活用の促進

・　他教科における PC 教室の活用は，部分的ではあるができている。

・　放課後等での PC 教室の開放は，実施できてはいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

①

・　成績評価方法（定期考査実施を含む）について検討する。

・　効果的な実習内容については，継続して検討する。

②　PC 教室の活用の促進

・　PC 教室の活用については，他教科だけでなく学年等にも促す。

・　放課後等での PC 教室の開放については，運用方法等について検討する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

①日常の挨拶、法然上人像への礼など、概ね実践できています。

②授業開始の「一枚起請文」は元気に奉読できていると思います。しかし、学年が上がるに従い少し元気のない時もあります。

授業においては各学年に応じた授業展開、内容の工夫が必要です。

③花まつり当番校を終えて、来年度当番校への引継ぎ業務に対応しています。

本年度、第一回の打ち合わせ会議において、記録データ等の受け渡しをしました。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①、②の項目とも２学期になり生徒の気持ちの緩みを感じます。始業での起立、礼、合掌、など威儀作法について生徒に指導していきます。

春、夏の合宿で実践した内容を継続して、授業に活かせるようにしていきます。

③第６７回、花まつり当番校の東大谷高等学校に協力し、円滑な引継ぎを行います。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学一年	**責任者名**	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

・生徒を注意深く見守り、少しの変化も見逃すことなく早期に問題を発見し素早く対処する部分に関しては、少人数ということもあり、目が行き届いていると考えられる。

・担任会・学年会の活性化に関しては、できていないのが現状であるが、連絡は取りあっている。

・基本的生活習慣の確立、助け合える集団の育成に関しては、なかなか小学校のくせが取れない者もいるが、指導を根気よく続けている。

・学習習慣の確立及び学習意欲の向上に関しては、学習ポイントカードというものを導入し、家庭学習の定着をはかっている。成果は少しずつではあるが、出始めている。

・漢検・英検の合格率の向上に関して合格者は増えている。

・総合学習・学習定着タイムの有効活用に関しては、英語の取り組みを考えていたが、現在は脳トレなどをし、発想力と思考力を鍛えている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

学習ポイントカード制度を導入し、家庭学習の定着をはかる。

落ち着きのない者が数人いるため、根気よく指導を行う。

その他に関しては、今までの指導を継続する。

スタディサプリを継続し、利用する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学２年生	**責任者名**	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

２８年度重点目標について

①　責任ある言動・行動について

２年生になり随分言動・行動は変わって来たように思う。教師側から指示しなくても動ける生徒が増えたことに驚いている。しかし出来ない生徒がいないわけではないので今後粘り強く指導していく必要があると感じている。

②　早朝テストなどの取り組みについて

１年次に比べると当たり前ではあるが、事前学習を行っている生徒が増えた。ただ、早朝読書を徹底できていないので、今後は学級文庫等を活用し指導していく。

③　相変わらず不登校生は登校できていない状況である。遅刻などの生徒はほとんどいないので今後も引き続き指導していく。

④　中弛みについては今のところ具体的には表面化していないが十分備えなければならない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

先程の項目で、「不登校生」を挙げたが、未だ解決する糸口すら見つかっていない状態である。どのようにアプローチをかければいいのかわからないのが現状で、カウンセリングの先生にも相談しながら対策を考えたいと思う。

また、学習においては、特に総合進学コースの意識が低いのがネックになっている。

宿題などの提出物は１００％提出するが、学力は定着していない。こまめに小テストを繰り返し、また補習などを実施し、意識だけでも変えていきたいと考えている。

来年３年生では、進学の問題もあるので学年末に向けてしっかり取り組んでいきたいと考えている。

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学３年	**責任者名**	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

２８年度重点目標について

【1】高校につながるようにする。【2】家庭での学習に意欲的に取り組む。

・けじめをつけて落ち着いて学習に取り組めるようになってきたように感じるが、一部まだできていない生徒もおり、今後約 100 日余りの間に徹底していきたい。

・課題の提出は、残念ながら滞る生徒が未だにいる。提出するまで担当者から何度も言って期限が過ぎても提出させるようにしている。

・体育大会、上宮祭、修学旅行などの学校行事に全員が積極的に取り組み、励んだ。

【3】後輩の良き手本となるよう自覚を促す。

・クラブ活動や体育大会などで先輩として後輩をよく導いてくれていると思われる。まだまだ頼りない面も見られるが、それなりにやっていると感じられる。

【4】家庭との連携を密にする。

・１年次から引き続き連携を密にし、問題の早期発見に努めている。入学して２年以上経過し、保護者との信頼関係も良好で大きな問題もなく今日に至っている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

全員が学業面で高校に上手く接続できるかどうかが心配である。単に本校進学規定をクリアさえすれば良いというわけにはいかない。高校３年間を無事に全うできるような、学習習慣の確立を目指す。

また、中学校の３年間で培った事を高校でも発揮し、３か年コースの生徒を牽引できる人材になってくれるように願っている。３０期生の良さでもある、全員が行事に積極的に参加し、前向きに活動する団結力は大いに評価できる。高校でも期待したい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高　1　学　年	責任者名	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

10 月 31 日(月)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導
②メリハリのある生活態度の実践と助け合える集団作り
③教員と生徒との信頼関係を築く
④前向きな上宮祭への取り組み

オリエンテーション合宿から、「格言プリント」をクラスに貼り、意識の向上を促したり、担任間での情報交換を密にすることで、クラスの雰囲気づくりにも取り組んできた。当初問題の多かった生徒も、２学期に入ってかなり落ち着いてきた感じがある。上宮祭も各クラス前向きに取り組んでくれた。ただ、落ち着いて見えるのは表面上だけかもしれないので、目は離さずに行かないとならないとは常に感じている。

(2)①家庭と学校との綿密な連携
②効果的なＬＨＲや学年集会の実施

担任が常に保護者と連絡を密にしながら、担任会でも情報を共有しながら進めてきたので、ある程度、気になる生徒については情報を共有し、家庭状況等もしっかりと解った上で対応できている。ただ、学年集会が一度も実施できていない。何かあった時ではなく、いい雰囲気を作っていくために、その機会を近々作る必要があるかと思っている。

(3)①『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり
②「前向きな姿勢」を意識した学習への取り組み
③　家庭での学習の習慣の確立
④　定期考査前の補習の実施

「合掌」で授業を始めることは定着してきたが、きちんとできていない授業も多いと聞く。もっと全教員で「感謝」を感じながら学校生活ができるよう、しっかりとやらせていきたい。特進コースは、家庭学習の習慣が確立してきた。寝不足になるほど勉強している生徒も多い。総合コースでももう少しその雰囲気を出していけるよう、今後取り組んでいきたい。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

総合進学コース

生徒間で、意識の高い生徒と低い生徒のバラツキがかなり出てきている。生活面でも、学習面でも、悪い雰囲気や習慣がそのままクラスの雰囲気にならないように、それぞれの意識を高める取り組みをしていきたい。英語のリメディアル補習の導入なども考えているので、うまく機能させていきたい。

特進コース

特進らしい取り組みはできているが、能力的に余裕のある生徒はほぼ皆無であり、かなり勉強に追い込まれている生徒は多い。ただ、これがスタンダードになれば、学年が上がった時にスムーズに受験に向かって行けるだろう。なんとかこのペースを守って頑張ってほしい。ただ、総合進学へコース変更する生徒のモチベーションの低さが少し気になる。特進にいることをうまく利用し、来年からの糧にできるよう、頑張ってほしい。

学年担当者会議の可能な限りの実施　…　日常の会話による生徒の情報交換

担任間は毎日細かく情報交換はできているが、非常勤講師の先生方ともっと話をして、サポートできる部分はしっかりサポートしつつ、チームとしての学年団の機能を上げていく必要性を感じている。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高２学年	**責任者名**	

① 生徒の様子を把握し、保護者との連絡を密にするために、１学期、２学期とも二者面談を実施した。

② 授業に対する姿勢をつくるために黙想で心を落ち着かせた。

特進コースは国公立大学、総合進学コースは関々同立を入試で合格するだけの実力をつけさせるためにも、自学習の習慣、補講習の充実につとめた。

③ 修学旅行については、時期と方面が変更となったので、まだこれからではあるが、生徒たちが一生の思い出となるような行事にしたいと考えている。球技大会は３学期で検討中。

上宮祭では一人ひとりに責任を持たせ、クラスで盛り上がり達成感を得ることができた。

④ 担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全員で生徒の夢・希望を応援したいが、学年担当者会議が開けなかった。

今後の取り組み

夏休み明けから上宮祭まで行事が続いており、なかなか落ち着かなかったが、上宮祭明けから腰を落ち着けて二者面談をし、再度将来の夢と、目標大学を決めてどう行動すべきかを一緒に考えたが、具体的に何をどうすれば自分の目標に届くのかを知り、早く行動に移させることが大事である。

各教科がそれぞれバラバラな動きをするのではなく、同じ方向を向いて同じ目標で動くことによって、個々の生徒の学力を引き上げることができる。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高３学年	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

（１）①合掌による授業の始まりは、定着したと思う。

②卒業生全員での、合唱を計画中

（２）①家庭との縁密な連携は、とれていると思う。

②効果的であるかわからないが、タイミングを考えＬＨＲや学年集会は実施している。

（３）①野球部中心になかなかチャイム着席ができない状況である。

②なかなか取り組めていない状況である。

③早朝テストに取り組む意識が低い。

④高３ということもあり、補習の実施はやめた。

（４）①進路指導部との連携により、実施できている。

②職員室内では、生徒の話を積極的にしているが、特に高３担任団の職員室での席が離れすぎている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

（１）総合進学コースでは、ＡＯ入試・スポーツ推薦での合格者の学業に対する意識の低さが特に目立って気になる。

（２）特進コースでは、５教科で粘る生徒が少ないことが気になる。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人権教育	責任者名	

① 中世・近世・近代と「ｼﾘｰｽﾞ映像で見る人権の歴史①巻～④巻」の DV 教材を活用してきました。近代以降こそ大切だと思われたので，融和運動・米騒動・水平社創立を部落の近代史のﾌﾟﾘﾝﾄを作成しました。また歴史の出来事がより具体的に理解できるように Q&A 方式を取り入れました。日朝関係の歴史においても，古代から江戸時代までの歴史を Q&A 方式を含むﾌﾟﾘﾝﾄを作成しました。 日本史の知識が必要な部分もあって難しかったが，この Q&A をよく読んで自分の意見を述べている生徒もいたので評価は B である。

② 育てる人権教育への取り組みは、実施面での困難な状況であるので本年度の評価は低い。

③ 推進会議については、いつものとおりである。

④ 校内研修については，多民族共生人権ｾﾝﾀｰの文公輝（ムンゴンフィ）さんを招いてﾍｲﾄｽﾋﾟｰﾁから考える在日ｺﾘｱﾝの人権（歴史教育の重要性）の題目で講演していただいた。とても理解し易かったので高く評価したいと思います。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

① 部落史の DVD 教材を使った新しい教材の作成は，近代までは完成しました。近代以降は自ら作成せざるを得なかったのですが，しんどいですが，作成者自身の勉強になりました。

② 育てる人権教育については、先生方に理解してもらっても実践が困難なようである。

③ 推進会議は、各学期末に組み込んでいただいています。各学年から丁寧な報告を頂いています。

④ 夏の校内研修は、講師の先生に「ﾍｲﾄｽﾋﾟｰﾁから考える在日ｺﾘｱﾝの人権」というﾀｲﾄﾙで講演をして頂き、歴史教育の重要性を改めて認識しました。私学人権以外の研修にも結構ためになるのもあるので，これからは、資料をｲﾝﾎｰﾒｰｼｮﾝ･ﾎﾞｰﾄﾞに貼るようにしたいと思います。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健管理	**責任者名**	

１、保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

定期健康診断実施は今年度より「総合検診」として全項目を全学年一斉に 1 日で実施したことで、効率化を図ることができた。また、今年度より実施義務の運動器検診や色覚の検査についても保健調査票等の配布・回収等がスムーズに実施することができ、スクリーニングに役立てられた。また、臨時の健康診断においても、男女プライバシーに配慮して学校教育活動の一環として教職員の共通理解、組織的連携を図ることができた。

配慮を必要とする生徒の把握と共通理解では、保護者、各学年団と常に情報共有を行い、組織的に対応ならびに支援を行うことができた。

２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

心身の発達に特性のある生徒に対しては、発育・発達に応じた健康課題に向けた個別の保健指導を行い、また、集団的保健教育では性の教育において全年度のアンケート結果を分析して、保健所の指導のもとに保健体育科と連携し、充実した取り組み内容で成果があった。また、宿泊的行事における健康管理や文化祭等の衛生管理にも昨年に比べて充実していた。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

男女の発達の特性を鑑み、相談しやすい環境作りに努めた。専門性を活かし、一人ひとりの心に寄り添うことに留意し、担任、保護者、教育相談（ＳＣ）、学年主任等と組織的な連携を深めている。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒保健委員活動では、検診準備及び介助に関して活動できた。また、文化祭においては、保健所の指導の下に、「アレルギー表示」などの食品衛生管理の指導を徹底することができた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

１、保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

麻疹やインフルエンザなどの流行の兆しが世間でうかがえるため、学校感染症の予防と発生時の迅速な対応、マニュアルの作成、予防啓発活動を積極的に行う必要がある。

また、救急処置対応だけでなく、けがの予防に努め、スポーツ振興センター請求の実態や予防啓発教材を活用して、けがの予防情報の発信を進めていきたい。

２、自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

欠席者を減らすために、睡眠、栄養、運動などの基本的生活習慣を自律的に改善、健康増進が図れるように予防教育に努める。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

心身に問題を抱える生徒の情報は、担任、保護者だけでなく、教育相談（ＳＣ）とカウンセリング後の状況についても、必要に応じて現状報告を行い、連携を深めていく必要がある。また、「生活アンケート」の内容をあわせて心の問題に注意を払い、組織的連携を図る。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒が、主体的に活動できる保健委員会活動の企画（心身の健康に関する情報発信など）を援助していきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	図書	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

①高校においては概ね開館できていると思います。中学においてはお昼休みのみで、放課後はほぼ閉館状態です。

②生徒、教員の希望図書は可能な限り購入、登録しています。

③生徒は積極的に図書室を利用していると思います。

毎月１回、図書だよりを中学、高校共に発行しています。

④男子、女子生徒共に課題学習に図書室を利用しています。

読書利用の生徒がやや少ないように思います。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①中学生については図書利用に関して不便をかけていると思います。

担当、補助の先生の協力を得て、来年度は中学生も高校生同様に図書室を利用させたいです。

②各教科の先生方にも意見をいただき、学習にも活用できる図書を増やしていきたいです。

③課題学習の利用のみでなく、本来の読書を推進できるようにしたいです。

図書だよりなどを通じて、生徒に情報を発信していきます。

④高校生の受験関係の図書について、可能な限り対応したいです。

※入試論文対策、指定校よりの論作文に関する図書など。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広報	**責任者名**	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

10 月 31 日(月)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

①広報物については他校の物を取り寄せ検討はしているが、十分な物ができていないのが現状である。

②中学校の内容のブログが非常に少ないので今後、中学校の内容を増やしていきたい。

③検討ができていない。

④今回、卒業生を招いて講演会を実施した。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

学校の価値を高める提案をしながら、それを外部発信していく。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	業務推進室	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

①・　個人カルテの作成の検討は，あまり進んでいない。

②　個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については，年度当初に新任研で行った。

・　個人データの管理の徹底も新任研でのみ実施した。

③・　イントラネットの整備は次年度導入に向けて検討している。

・　教員へのノートパソコンの貸し出しは適宜，実施している。

・　ファイルサーバ内のフォルダの管理については，継続的に実施している。

・　データのバックアップ体制の充実は，まだ進んでいない。

④　業務軽減への方策

・　分掌内での情報の共有化の徹底は，十分とは言えない。

・　効率的な業務の分担の実現は，部分的にはできている。

・　作業マニュアルの改訂は，あまり進んでいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

①　・　個人カルテの作成についてはさらなる検討が必要。

②　個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については，学期末に実施を検討中。

・　個人データの管理の徹底も学期末に実施を検討中。

③　・　イントラネットの整備については，次年度導入に向けて検討する。

・　教員へのノートパソコンの貸し出しについては，今後台数を増やす予定。

・　データのバックアップ体制の充実は年度末までに実施知る。

④　業務軽減への方策

・　分掌内での情報の共有化の徹底は，今後努力する。

・　効率的な業務の分担の実現は，できる範囲から増やしていく。

・　作業マニュアルの充実は，今後も更新する。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	学校評価	**責任者名**	

（校務分掌―学校評価―平成 28 年度―28 中間評価―28 中間部署名）

10 月 31 日（月）までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

・平成 27 年度の学校評価及び学校関係者評価に関しては、予定通り実施できた。

・授業アンケートに関しては、11 月 4 日、5 日実施に向けて、準備を進めている。

・保護者・生徒・教職員アンケートに関しては、12 月実施に向けて、現在進めている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・今後、第三者評価をどのように考えていくのか、検討が必要である・

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

①適切な事務処理水準の維持

昨年より１名の減員がなされ、一人ひとりの負担が増しているなかで、緊張感をもって業務にあたっている。連携を密接にし、計画的に業務を進め、ダブルチェックでミスを減らすという意識が浸透してきた。

②校内・教育環境のさらなる整備

計画を立てている営繕計画のうち、カーテンクリーニング・トイレ改修等の時間のかかるものが手つかずになっているものがあるので、年度末に間に合わすよう努力したい。

③消耗品等、管理経費の削減

消耗品倉庫の整理を始めたところであるので、継続的に整頓を行い、無駄な経費の削減につなげたい。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

やはり１名の減員は大きく、公休日で１名少ない日は影響が大きい。生徒対応・来客・業者・電話等が重なる場合などは特に集中して業務にあたりたい。些細な内容でもメモをとりうっかりミスを減らすなどの工夫を凝らしたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 28 年度授業アンケート　分析

１．実施時期

高等学校　　11 月 4 日

中 学 校　　11 月 5 日

２．対象学年

全学年

３．グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の 4 段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

質問別肯定的評価グラフ

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

「板書等」……先生の黒板・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？

「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか。

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」は生徒の自己評価になります。

４．分析

平成 28 年度は 11 月に実施した。約 6 ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように今後も進めて行く。

【高等学校】

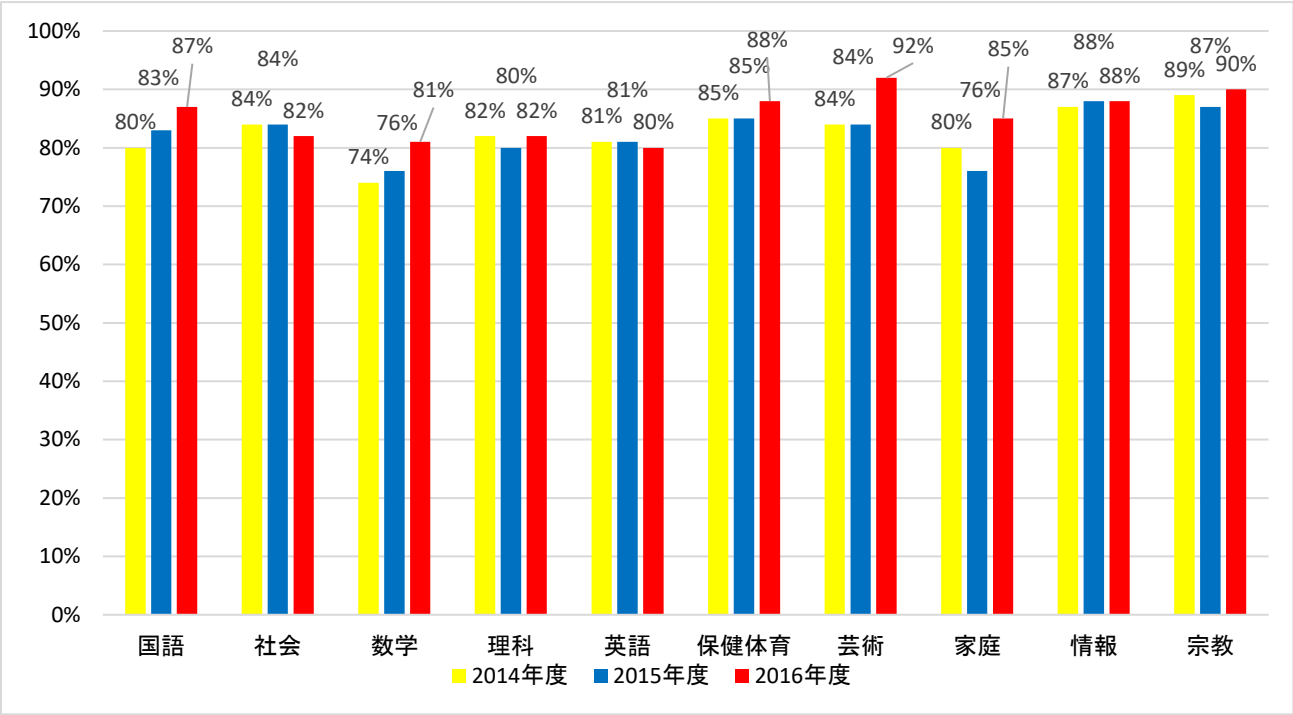
教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも８０％以上になることを目標としている。過去３年のグラフを比較すると、今年度はほぼ同じ評価かやや高い評価を受けている。特に国語、数学、保健体育、家庭の評価が前年度と比べると、高い評価になっている。今後とも、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。また、質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度と同様に今年度の重点目標として家庭学習の習慣を掲げた。数値的にはやや低くなっているが、家庭学習の習慣が定着していると考えられる。また、「授業展開」の評価は他の項目に比べると評価の数値が低いが、この項目は他の項目より数値的に低く出る傾向にある。また、自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるので４０％以上が目安になる。今後、各教科ともどのように改善をすればより高い評価になるか検討を重ねていきたい。

【中学校】

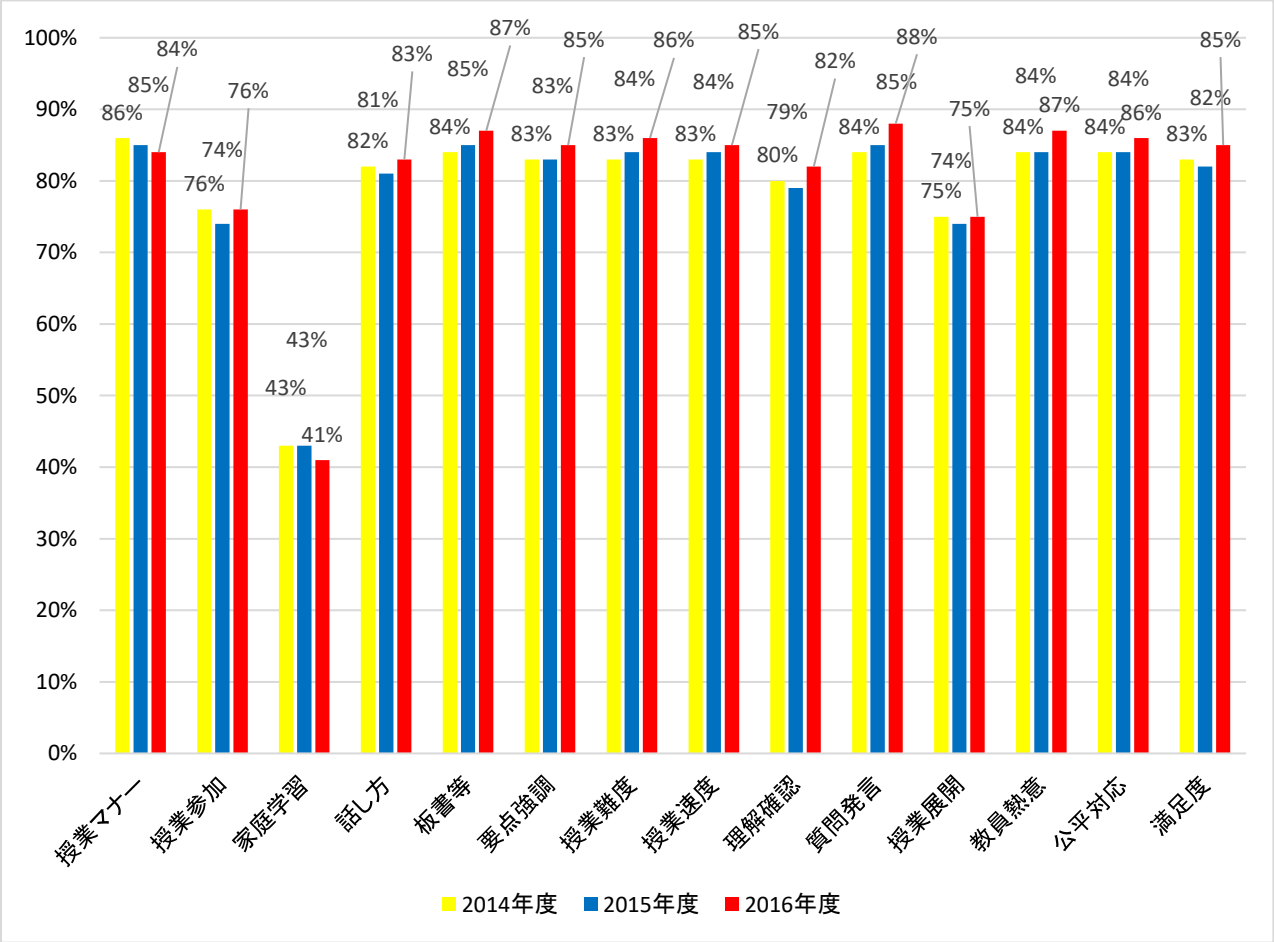
教科別肯定的評価グラフにおいて、高い評価であると考えられる。特に、数学の評価が高くなった。高等学校に比べると人数が少ないので、数値の変動に大きく左右されるが、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。質問別肯定的評価グラフにおいて、「家庭学習」の自己評価が少しではあるが改善された。しかし、中学校から学習習慣の定着をもっと図る必要があると考えられので、いかに低学年から家庭学習の習慣を身につけさせていくか、継続的に検討をしていきたい。

平成 28 年度　上宮太子高等学校　授業アンケート

教科別肯定的評価

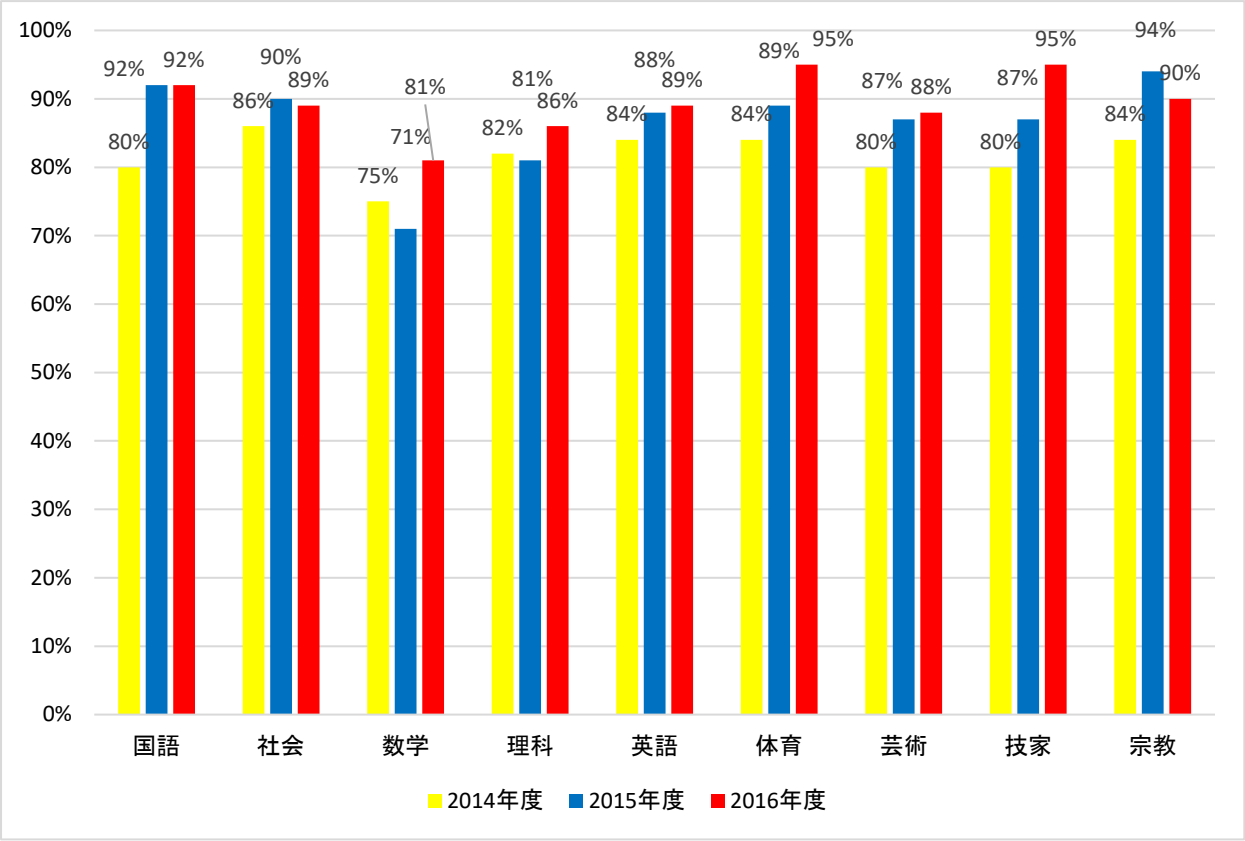


質問別肯定的評価

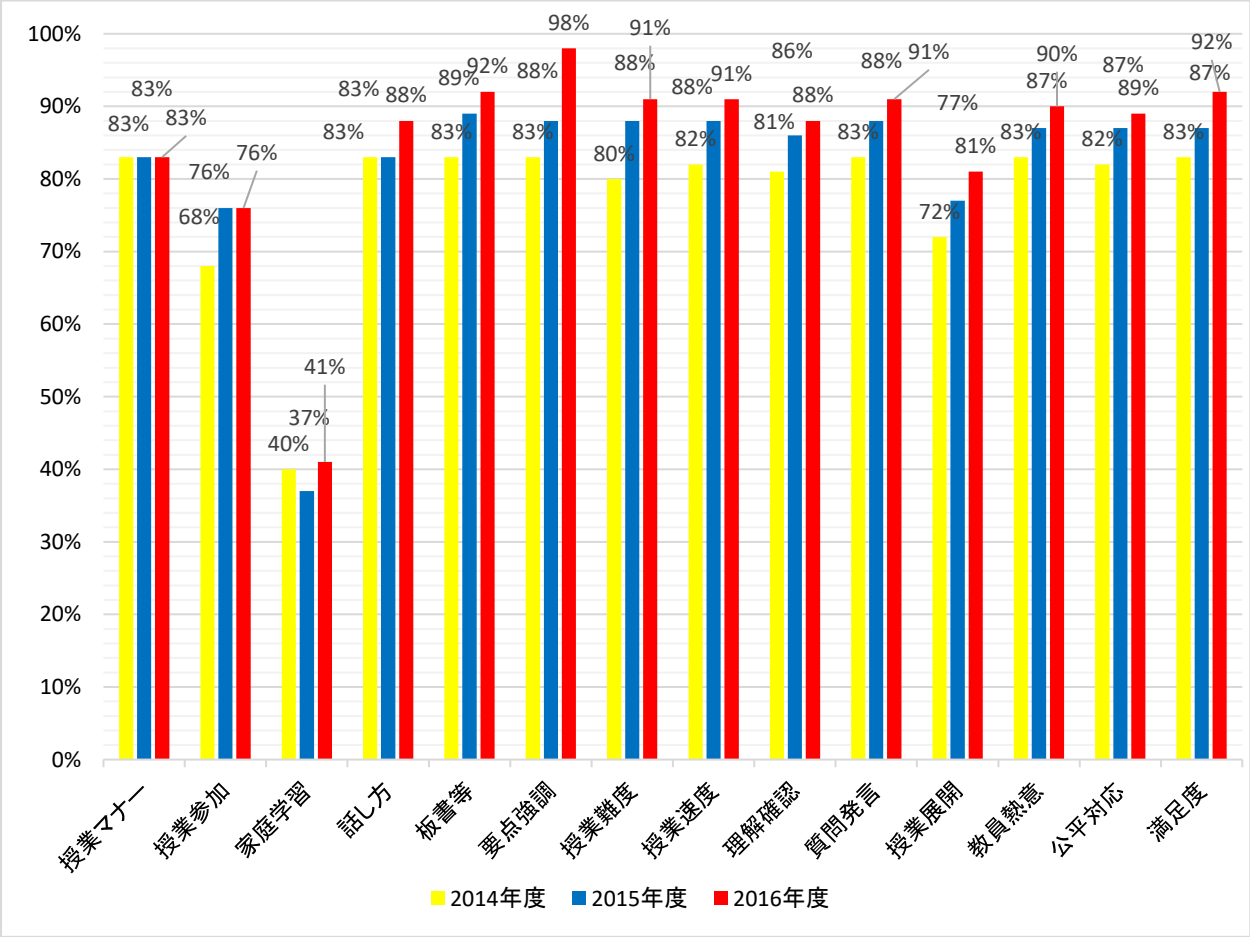


平成 28 年度　上宮太子中学校　授業アンケート

教科別肯定的評価

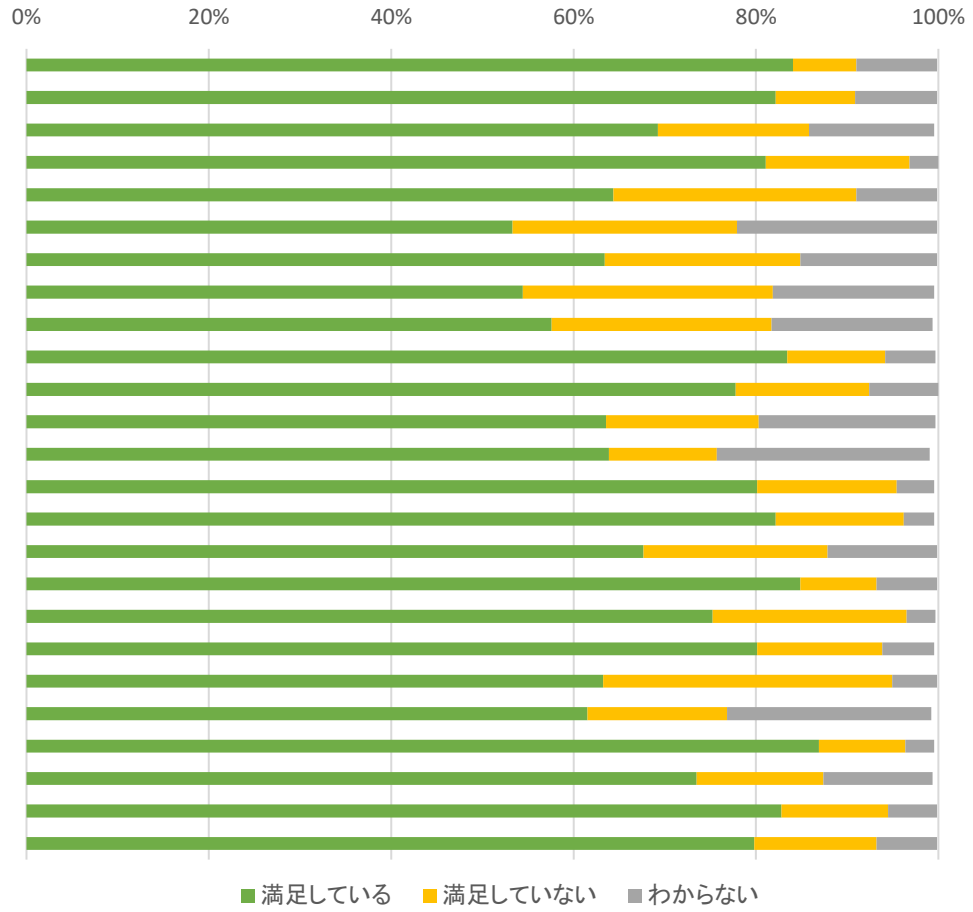


質問別肯定的評価

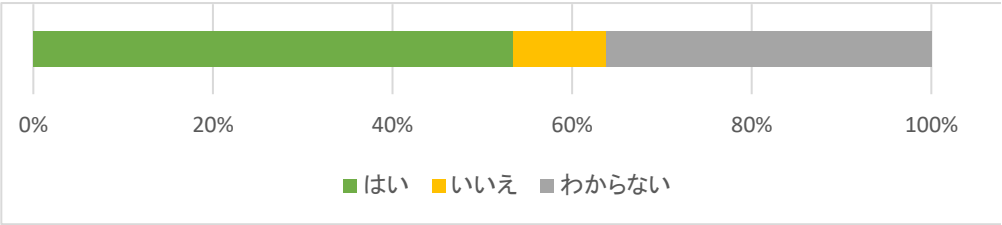


平成28年度　保護者アンケート　集計結果

番号	設問文
1	「校訓・学順」を柱とする本校の教育理念が教育活動の中で大切にされていること
2	仏教の教えに基づいた教育が行われていること
3	各コースの特色が教育に活かされていること
4	お子様の学校生活が楽しく充実していること
5	学習習慣が身に着く授業が行われていること
6	授業をわかりやすくするため、教え方を工夫している教員が多いこと
7	教員は生徒の学習意欲を高める努力をしていること
8	授業の進み方が適切で、授業につまずかないように配慮されていること
9	授業や課外学習などの学校の学習で、大学受験に対応できること
10	担任が親身になって個別的な相談に対応してくれていること
11	基本的生活習慣が身に付く生活指導が行われていること
12	よい友人関係を築けるための指導や努力を教員がしていること
13	ホームルームの時間帯に将来の進路や生き方について考える機会があること
14	進路および教育活動に関する保護者説明会や懇談が充実していること
15	体育大会や上宮祭等の、学校主催の行事が充実していること
16	部活動が活発で内容が充実していること
17	教職員の電話等の対応が適切であること
18	学校からの通信や文書などで学校の様子が家庭によく伝わること
19	教員が家庭との連絡・連携を大切にしていること
20	学校施設が整備され、充実していること
21	防犯・防災、安全管理への対策が整っていること
22	現在の担任の指導に満足していること
23	現在の学年の運営に満足していること
24	学校はよい友人関係を築く場になっていること
25	本校を選んだことに満足していること



B	あなたは、本校への入学を親戚、友人・知人に勧めますか？



平成28年度　保護者アンケート　集計結果について

まず、本校の教育理念や仏教の教えに基づいた教育の実践に対して、満足していただいている方が多いことに感謝いたします。生徒一人ひとりの成長を目指した担任指導をはじめ、保護者説明会や学校行事などについても一定の評価をいただいています。

一方で、授業のスキル向上や学力向上等については、教員全員が目指していかなければならない項目でもあり、今後どこに問題点があるのか、授業アンケートの結果も踏まえて教員が一丸となって重点的に検討を加えて参ります。また、設備面については、すでにグラウンドの照明をLEDに交換をしました。さらに、校内の照明につきましても計画的にLEDに交換をし、また将来的にトイレ等の環境整備も予定しています。

このアンケート結果を参考にし、私学ならではの教育、また宗門学校としての教育を基盤に置き、上宮太子中学校・高等学校をよりすばらしい学校にいていく努力をして参ります。

平成 28 年度　学校評価に関する報告書

上宮太子中学校・高等学校

１．平成 28 年度年間目標

平成 28 年度の年間目標として、浄土宗の教えを基盤としたうえで、特進コースからの国公立大学合格者数および総合進学コースからの大学合格者数の数値目標、英語検定試験の合格者数の増加、理系コース選択者数の増加、共学教育の推進、連携をとりながら各部署がそれぞれの職務に取り組むことと、授業力の向上に向けた研究を各教科が取り組むこととした。

２．各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

・各部署との連携強化
・行事における目的、意義の明確化
・校内環境整備
・各コースの指針に即したカリキュラム改善の検討
・教務内規の精査
・シラバスの作成
・中学高校間の連携

【評価】

・各部署との連携強化については、より教育効果が高まる工夫を考えながら進めた。よって、昨年度よりも改善できたと思われる。今後も連携強化の大切さを常に意識し、各行事等が円滑に回っていくように行いたい。

・学校の目標に基づいてカリキュラムの改善を考えたが、まだまだ改善途中であり完成には至っていない。今後の学校目標を見据えながら継続して作成していく予定である。

・シラバス推進委員会で審議を重ね、中学校高等学校ともに一応の完成を見た。

・教務内規は継続して検討を重ねているが、一部現状に合わせた内容に変更した。

②進路指導関係

【重点目標】

・進学意識の向上
・学力の向上・学習指導強化に向けた企画立案及び発信
・中学進路の企画及び立案
・５年後、10 年後への投資

【評価】

・自分の進路に対する考えをはっきりと持つ生徒が増えたため、自分の希望する学部や学科がない場合に、指定校推薦や高大連携推薦を利用せずに、公募制推薦や一般入試を活用

する生徒が増えた。更に、生徒の望む進路の実現に向けて、利用できる環境づくりに貢献していきたい。

・１年後、３年後、６年後を見据えた進路指導及び学力向上に着手しているが、まだまだ検討すべき要素がある。

・中学生への進路指導について、具体的な行事等を検討した。

・学習指導強化に向けた、各分掌との連携を踏まえた企画立案を考えた。各教科とも、模擬試験の分析結果などから、学力向上に向けた方策を検討したが、まだまだ方法論においては議論する余地が残っており、今後ともに検討を継続していくことが必要である。

・模擬試験の分析をより一層充実したものにする取り組みについては、会議等で分析を実施、その結果から今後の方向性を考える場の提供を職員会議で行った。

・５年後、10 年後への投資として、大学入試制度改革やアクティブラーニングに関する研究のためのセミナーへの教職員参加を促した。今後も世間の流れの方向性を、各教職員間で共有できるように情報提供に取り組んでいきたい。

③生徒指導関係

【重点目標】

・全教員による生徒指導の推進と問題行動の予防強化

・生徒の道徳意識、規範意識の向上

・いじめ問題、不登校、配慮を要する生徒への取り組み強化

・生徒指導方針、生徒心得の改定検討

・生徒会、委員会活動の活性化

・生徒の愛校心向上

【評価】

・大阪私学生徒指導連盟の活動で得た情報を構内に生かす取り組みができた。

・全教員による一律指導ができている。各学年との連携が強化できている。

・学校の活気を高揚する取り組みについては、生徒に呼びかけ等機会のあるごとにしていった。全員が集合する機会を利用して、生徒会と協力して生徒への働きかけを強化した。

④入試対策関係

【重点目標】

・校内説明会の充実

・校内への情報提供

・地域との連携

【評価】

・中学・塾へのアプローチについては、より効果的な方法がないか常に検討を行った。その結果、高校の受験者増を達成することができた。しかしこれで安心することなくまだまだ継続的に検討していきたい。

・地域との連携が進んでいるといえる。さらに緊密にできるように、広報や事務と連携を

取りながら、進めていきたい。

・広報と入試対策部が中心になって、ホームページを定期的に更新した。アクセスも以前より多くなり今後も有効な情報発信源とし活用していきたい。

・女子生徒の比率がまだまだ低く感じられる。今後女子生徒への有効な広報を検討していきたい。

⑤学年

【重点目標】

・各学年に応じた基本的生活習慣及び学力定着の確立

・学年担当者間、保護者との連携

・挨拶の励行

・自立、責任感を持たせる取り組み

【評価】

・各学年とも年度当初の目的はある程度達成できた。基本的生活習慣の確立については、毎年学年を通じて今後も取り組んでいきたい。

・学年内での情報共有については、昨年度よりは進展したと思う。さらなる方法を今後検討していく予定である。

・将来を見据えた大学進学に関しては、各学年とも、昨年度以上に意識を持って取り組んだ。

・中学においては、自立に重点を置いた。保護者との連携によりその成果が出ている。

・英語検定の取得級の向上を各学年とも目指している。生徒の意識が定着してきている。

・今後とも 6 か年を通した指導の確立を今後も目指していきたい。

⑥教科

【重点目標】

・学力、技術の向上

・教科会を通じての教科内研修の充実

・授業アンケートを参考にした授業改善および授業力の向上

・大学入試問題等の研究推進及び受験対策への活用

【評価】

・複数の教科では、教科会で学力向上についての意見交換を行ったが、まだまだ時間的に突き詰めることができず、具体的な部分までは進めなかった。

・昨年度に比べ、各教科の授業見学は頻繁には実施できなかった。しかし、外部研究会への参加を通じての授業法向上の研究は実施できた。

・各教科とも、授業アンケートの結果を踏まえ、教科会でより良い授業をするための改善点を検討している。

・英語科では、英検受験者の増加とともに、英検講習を学年の枠を超えて実施、合格者の向上に繋がった。

・社会では、科目選択に必要な情報をできるだけ詳しく伝える機会を設けることができた。
・大学の入試問題の分析を各教科で具体的に組織的に実施した。
・実技教科においては、その教科の特性を鑑み、体力の向上、技術の向上、協調性、より素晴らしい感性の育成等の目標をほぼ達成できたと考えている。

⑦その他

【重点目標】

・いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実戦
・読書活動の推進
・データ処理システムの考察
・校内整備
・生徒会活動の充実
・学校保健組織活用の円滑な推進

【評価】

・生徒会活動において、風紀委員や整美委員らが中心になって行っている挨拶活動や清掃活動は、順調に運用できている。
・保健室と連携して保健委員の活動も、活発に行えた。
・体育大会や上宮祭において、生徒会を中心とした進行は昨年度より進んだものとなった。

３．授業アンケート

今年度は２学期に１回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

４．保護者・生徒・教職員アンケート

１２月に保護者、生徒、教員に対して、同じ項目でアンケートを実施した。アンケート結果を踏まえ、今後改善をしていく予定である。資料については別紙に記載している。

平成 28 年度に関する学校関係者評価報告書

上宮太子中学校・高等学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

１． 平成 28 年度自己評価結果について

平成 28 年度の学校評価の取り組みおよび自己評価についての説明の冒頭に、学校評価の趣旨と学校関係者評価の目的についての説明があり、その後、平成 28 年度の学校評価の説明があった。

まず、平成 28 年度の年間目標として「浄土宗の教えを基盤としたうえで、特進コースからの国公立大学合格者数および総合進学コースからの大学合格者数の数値目標、英語検定試験の合格者数の増加、理系コース選択者数の増加、共学教育の推進、連携をとりながら各部署がそれぞれの職務に取り組むこと、授業力の向上に向けた研究を各教科が取り組むこと」とし、そのもとで各部署が年間目標を作成し、それに向けて実施された内容と課題の説明があった。その実施した内容に対しての分析をもとにした自己評価を提示された。

11 月に実施された「授業アンケート」および 12 月に実施された「保護者アンケート」について、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。

２． 平成 28 年度自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間の連携も昨年よりも更に良くなっているようだ。今後とも研鑽をして、より良い学校にしてもらいたい。

進路指導面では、自分の将来像を考えた上での進学という面から、指定校推薦や高大連携推薦に頼らずに意中の学部学科への公募制推薦や一般入試を活用する生徒が更に増えてきていることは、進学意識が向上しているということであり評価できるものである。そして、1 年後、３年後、６年後を見据えた進路指導の在り方を模索され、５年後、10 年後への投資として、教員間の大学入試制度改革やアクティブラーニングに関する教員研修参加を推奨されていることは今後のあり方として好ましいことと言える。

中学からの進路指導も、今年度も行事の中に取り入れられ、数年後を見据えた内容で実施され、職業選択の意識付けをなされたことは評価できる。

生徒指導面では、全教員による一律指導を目指した情報共有の取り組みは評価できる。そして、問題行動が起こる前に、その予防に重点を置いた指導が目標化され、実施されたことは、実際に効果が出ているものであり評価できるものである。また、生徒参加による生徒会活動を活発に利用され、生徒自らが主体的に行動する意識を学校全体で共有されていることも大変好ましい。ただ、一部の生徒会活動においては教員との連携に改善の余地があるように考えられるので、更なる生徒主体の生徒会活動となるよう取り組まれたい。

各学年、各教科での指導面でも、前回同様に情報共有に重点が置かれたようで、教員間の意識の統一を強化されたことは評価に値する。こうしたあり方は、各分野それぞれでのレベルの底上げにつながり、今後に期待できるものである。そして、ベテラン教員と新任教員との情報共有を今後も続けることで、一律の授業効果が期待できる環境を整えられたい。

以上の他に、現行の大学入試制度の学年と、新大学入試制度の学年とが混在する現状での今後の取り組みについてのこと、行事日程のあり方のこと、制服の併用期間などが話し合われた。

また、学校評価アンケートの数値結果だけで計れない太子教育の良さがあるのではないかという意見も出され、数値に拘らずに太子教育の伝統を継続し、生涯教育を見越した温かみと手作り感のある人間作りの教育を守り続けて欲しいとの要望も出た。